

二〇二五年度が始まりました。池袋校舎からこちら、目白校舎に引っ越しをして、はや一年がたちました。目白校舎での生活は、あと一年半。より充実した学校生活を送れるように、また、再度の引っ越しに向けての準備等教職員一同、さらに奮励努力する所存です。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。本校では昨日、四月八日に始業礼拝を行いました。その時に児童の皆さんにお話した内容です。



二〇二五年度の始業礼拝です。土曜日に七十八回生百二十名が入学しました。一年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。二年生以上の皆さん、進級おめでとうございます。さて、今日四月八日は、ある有名な方の誕生日です。どなたの誕生日か分かる人はいますか？

今日は、仏陀（ブツダ）とか、お釈迦（シヤカ）様と呼ばれる、本名ガウタマ・シッタールタさんの誕生日です。イエス様はキリスト教。お釈迦様は仏教という宗教を始められた方です。

仏陀というのは、「悟りを開いた者」という意味だそうで、仏陀のうちのお一人がお釈迦様ということになるようです。そのお釈迦様にまつわる話をします。

時は江戸時代。「鑄物Ⅱいもの」と言って、金属を溶かして型に流し込んで、冷やして固めて色々な形にしたものを作る人たちがいました。鑄物は比較的安く大量に作ることでできるので、今も君たちの身のまわりにもあります。一番見慣れていそうなのは、「マンホールのふた」。そう、マンホールのふたは鑄物でできています。鉄のように見えるけれど、鉄ほどは固くないので、落としたりすると割れてしまうというもろさもあります。

その鑄物を作る職人さんたちが苦勞するのが火加減。金属を溶かすときの火加減によって、溶けた金属の一部が型にくっついたり、型通りの形にできあがらなかつたりするのだそうです。

江戸っ子の職人さんは、「火が強かった。」と言うのを「しが強かった。」と発音します。江戸っ子は、「ひ」と「し」の発音がごっちゃになる方が多かつたようで、「秘密Ⅱひ・み・つ」が「し・み・つ」。「潮干狩りⅡし・お・ひ・が・り」が「ひ・お・し・が・り」と、こんな感じです。

そこで、「火が強かった↓しが強かった↓しがつようか↓四月八日Ⅱお釈迦様の誕生日Ⅱお釈迦」となり、ダメになったり不良品ができたりすること、壊れることを「お釈迦になる。」と言うようになったのだそうです。あまりにもできすぎた話ですが、説としては面白いですね。

さて、三月末、先生方が傘立てを点検したところ、名前なしの傘や、壊れた傘が大量に残っていてびっくりしたそうです。傘が「お釈迦」になるのではなく、君たちが傘を「お釈迦」にしているということです。名前無しでは、持ち主に返りようがありません。

学年の書き換えや記名はきちんとできていますか。傘でチャンバラをして、「お釈迦」にしたり、靴箱に靴をきちんとして、お釈迦にしたり、落ちてくる靴を蹴飛ばしたりして、「お釈迦」にしているような人はいませんでしようね。

学期初めです。記名の徹底は物を大切にすることに繋がります。筆箱の中の鉛筆を削る。消しゴムをちぎったり、鉛筆の穴だらけにしたりして、元の形をとどめないようなお釈迦消しゴムにすることのないように、気を引き締めてスタートしてほしいものです。

担任の先生が変わった人たちは、緊張している人がいるかもしれません。少しずつ、慌てずに、だんだんと慣れていってください。

・・・・・・・・・・・・・・・・

始業礼拝後、五年生の一年間、立教英国学院に留学していた現六年生二人のご挨拶と新任の教職員七名のご挨拶の後、恒例の対面式。「立教生が歩む道」の大合唱のもと、六年生が作るアーチを新入生・新任の教職員がくぐり抜け、笑顔に包まれた新学期が始まりました。
(立教小学校校長 田代 正行)